本愛

発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL（052）461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL（0743）62-0378
編集責任　広報部

年間活動目標
今日を陽気に。つながる、つなげる。

おたすけ推進の集い開催

内統領・宮森与一郎先生が巡教

教祖140年祭

教祖140年祭へ向かう三年千日も2年目となる今年。大教会では1月13日、立教187年の春季大祭が厳かにつとめられた。祭典後には、部内教会長夫妻を対象とした「教会長夫妻おたすけ推進の集い」が開かれ、内統領・宮森与一郎先生が講話（写真）。年祭活動の中心となる教会長夫妻に、あるべき心構えなどを話された。

大教会の立教187年の春季大祭は13日、厳かにつとめられた。

安藤吉人大教会長は祭文の中で、教祖140年祭の活動2年目を仕切ってつとめさせていただく旨を奏上。今年6月に創立110周年記念祭を執行することにふれ、「ご存命の教祖にお喜びいただけるようつとめさせていただきます」と奏上した。

教会長が率先して

おつとめ、十二下りのてをどりの後「教会長夫妻おたすけ推進の集い」が開かれ、内統領・宮森与一郎本部員が登壇した。

宮森先生は自身が交通事故の節に大きな御守護を頂いたことなどにふれ、「年祭活動は小学生であれば2年生になったところ。進級にふさわしい働きができたかを顧み、私たち教会長が率先してつとめさせていただこう」などと話した。

また、大教会の記念祭に真柱様ご夫妻ならびに大亮様ご夫妻がお入り込みくださることについて、「それぞれの教会にお入り込みくださるのと同じだと考えて、どのような役割であっても勇んで、にぎやかにつとめていただきたい」と奮起を促した。

なお、同集いに引き続いて、年頭連絡会が行われた。

サポーター制度導入

少年会

少年会本愛団は1月13日、「サポーター制度」を導入する旨を発表した。

従来、本愛団の各行事は委員や部員が中心だったが、より幅広い人材が子供たちの育成に携われるようにするもの。登録すると行事スタッフとして参加できる。

登録は下記ＱＲコードから。

2月のこよみ

入社祭	**1日**	**午前10時**
よふき会例会	2日	午前10時
女子青年例会	11日	午前10時
月次祭	**13日**	**午前10時**
青年会例会	13日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
こども食堂ＭＯＧＵ	17日	午後5時
婦人会例会	20日	午前10時
本部月次祭	**26日**	**午前9時**

現代に生かす「用木の道」

文・安藤吉人

天理教教典に、このような一節があります。

「たんのうは、単なるあきらめでもなければ、又、辛抱でもない。日々、いかなる事が起ろうとも、その中に親心を悟って、益々心をひきしめつつ喜び勇むことである」

以前に動画の中で触れたエピソードなのですが、安藤正吉初代会長は名古屋での単独布教中、理の親である東本大教会の中川よし会長から東京に呼び戻されたことがあったそうです。急いで名古屋を発ち、中川先生の部屋に入ると、先生は閉まったふすまを指して「安藤さん、ふすまが空いてるで」とおっしゃり、初代会長は、咄嗟にもう一度自分でふすまを開け、再度閉め直したうえで「申し訳ありません」とお詫びしたそうです。すると中川先生はにこやかに、用件は済んだとおっしゃったという話を、古い先生から聞かせていただいたことがあります。

おそらく中川よし先生は、安藤正吉という人物が「たんのう」の教えを、心にしっかり治めているかを確められたのではないでしょうか。

そしておそらく、初代会長様自身も、中川先生の言動に込められた親心を悟り、「ありがたい」と喜びの心で受け止めたのだと思います。

「結構なことや」

先程の引用の中にあるように、たんのうとは「あきらめ」や「我慢」ではありません。心の中で割り切れない他人の言葉や状況の中に「喜び」を探すことなのです。

以前にこの話を動画でしたところ、安藤正吉初代会長が「たんのう」について書いた資料を見つけてくださった視聴者の方がおられたので、ご紹介します。

たんのうは今まで行ってきたことのさんげで、このさんげだけでは消極的信仰となるのであります。その反対に、ひのきしんは前へ向かっていく信仰で、いわゆる陰徳を積む信仰であります。

（中略）今まで通った道はお詫びをしてたんのうさせていただき、一方では陰徳を積んでゆかねば本当の信仰とは言えないのであります。たんのうが右手であると、ひのきしんは左手であります。（中略）どうしても両手を使わねばなりません。（『本愛誌』昭和62年3月号）

たんのうとひのきしんを「両手」に例えて説かれているところに、初代会長様独自の教理解釈があるように思います。

教祖は、奈良の監獄で人々から「狐つき」などと罵られたとき、「たくさんの人から肥をかけて頂いて有難かった。結構なことやった」とおっしゃいました（天理時報 昭和30年10月）。

心に不足を感じるとき、私は教祖のこのご様子を思い浮かべます。このようにして日々教祖に思いを致すことが、年祭活動で最も大切なことだと思うのです。

立教186年（令和5年）年間教務統計

初席者

直轄	5	本一心	2
本煥	1	本海部	7
本晃	10	本喜愛	2
本心	1	本正義	1
本耕	4	本清明	1
本道橋	2	本桑名	1
本濱松	1	本愛守	1
本枇杷島	1	本今村	2
本山王	1	本愛中	1
本孝徳	1	本愛慶心	1
本仁愛	1	以上47名	

おさづけの理拝戴者

直轄	1	本今村	1
本名	1	本愛濃	2
本心	3	本豊國	1
本則武	1	本愛アトランタ	1
本喜愛	1	以上12名	

修養科修了者

本築	1	本理愛	1
本濱松	2	本滋賀	1
		以上5名	

教人登録者

本心	1
以上1名	

教理随想

言わん言えんの理を探る

【第110回】

教えを心と体に染み込ませ 身近なおたすけに励む旬

今年は元旦から能登半島を震源とする大きな地震が発生しました。そして今も多くの人々が避難を余儀なくされています。

現地では、自衛隊や消防によって被災者の救助活動が進められていますが、天理教の災害救援ひのきしん隊も地震直後に現地入りし、行政と連携して活発に救援活動を行っています。私たちようぼくは、たとえ現地に駆け付けられなくても、被災者の気持ちに寄り添い、人々のたすかりと一日も早い復興の願いをこめて日々のおつとめをつとめていきたいと思います。

ところで身上や事情のおたすけに際して、心がけるべきことは多々ありますが、中でも重要なことは、如何にすれば親神様と教祖のお働きをいただけるかという点です。そのためにはどうすればよいのでしょうか。

建物や植物が、表からは見えない裏側や蔭の働きに支えられているように、おたすけでも、おつとめやおさづけという行いの蔭にある、自身の心の持ち方が肝腎になってきます。すなわち、おたすけに当たる者が、教えに沿った日々を送っているかをふり返り、教理を拠り所として我が心の軌道修正をはかっていく信仰姿勢が求められるのです。

かつて、個性派の俳優として活躍した大滝秀治という役者さんが、こんな言葉を遺しています。

「役を体に染み込ませ、観客の前でそれを滲み出すのが本物の役者だ」。

この言葉はおたすけに取り組むようぼくにも当てはまるのではないでしょうか。つまり「世界一れつたすけたい」という教祖の親心を心と体に染み込ませ、それがおたすけの現場で滲み出るように日々を送ることです。言葉は勿論必要ですが、言葉だけでは教えは伝わらないし、人の心を動かすことはできません。まず自らが教えに基づく生き方を心がけることが、おたすけには不可欠な要因なのです。

中でも特に心に携えておきたいのは「十全の守護」と「八つのほこり」です。

「十全」とは、十の説き分けをもって完全という意味ですから、身上事情の悩みはすべて、「十全の守護」のどこかが欠けた姿であると悟ることができます。そこで病気の症状や体の機能を入口として幅広く思案し、深く反省する。そして信仰的な成人を心に定め、説き分けに沿って思案を進めていけば、必ずご守護につながる道が開かれます。

■周囲の姿を鏡として

また「八つのほこり」と教えられる悪しき心使いを改良していく努力も忘れてはなりません。けれども難しいのは、自分の心に付いたほこりは、自分では分かり難いことです。そこで教祖は、家族や身近にいる人の姿を鏡として見る捉え方を教えてくださいました。

日常生活で鏡を使うのはどんな時でしょうか。それは身なりを整えたり、顔の汚れを確かめる時です。これと同じように、自分の魂の汚れを確かめるには、周囲の姿を、鏡に映る自分の魂の姿として受け止めること。それを基準として心使いを改めていけば、ほこりは必ず払われていきます。

人間の本体は何か。それは心です。心が右を向くから体も右へ進み、心が左を向けば体も左へ進みます。体は銘々の心に貸し与えられた借り物ですから、本体である心の使い方を切り換えない限り、体に現れる身上や人生上の苦しみ悩みは解決しません。そして心を切り換える時の重要なかどめは、人をたすける方向へと心を向けていくことです。この点をしっかり胸に刻んで、身近なおたすけに取り組んでいきましょう。

修養科生教養掛

第988期
10月　桑子彰（本穂）
11月　水野和好（本正行）
12月　佐藤幸一郎（本築）
右の各氏が教養掛を務めた。

修養科第988期修了者

板山眞仁（本濱松）

12月のおさづけの理拝戴者

松浦愛華（本喜愛）

12月の初席者

奥田新児（本和合）
オーペナリマ・アンゲル（本和合）

本美幸分教会初代会長大倉八郎之霊の一年祭

本美幸分教会では12月23日午前11時より、初代会長・大倉八郎之霊の一年祭が大教会前会長を祭主として同分教会で行われた。

立教百八十七年　春季大祭　祭典役割

祭主　大教会長
扈者　筑紫英一　都築隆道
指図方　安藤正二郎
賛者　塚原光男　出口邦郎
開扉　大教会長

おつとめ役割

	（座りづとめ）	（前半）	（後半）
	大教会長	青木健裕	板山眞一
	前会長	山神茂彦	佐藤幸一郎
てをどり	安藤正二郎	加藤成幸	野田正樹
	大教会長夫人	津田かずみ	渡邉眞由美
	佐藤孝代	佐藤明美	佐藤多喜恵
	青木奈美子	山神理恵子	大橋和代
地方	野田正道	出口順英	松浦道太郎
	都築隆道	吉田克義	細川明
	大倉光晴	長江邦彦	山本正太郎
笛	中島功雄	種田孝男	津田豊郎
ちゃんぽん	上野昭夫	松原悟	杉下和平
拍子木	大橋進	田中新一	佐々壽章
太鼓	桑子保	和光重男	上野孝吉
すりがね	杉村善男	長尾誠	相原知宏
小鼓	筑紫英一	吉田正信	中島裕信
琴	都築花枝	加藤ふみ	出口まつみ
三味線	前会長夫人	出口敬子	相原由実
胡弓	吉田佳子	坂倉道代	細川やよい

本愛大教会　創立110周年記念祭

立教187年　6月23日　執行

大教会日誌

令和5年12月25日～令和6年1月24日

12月

26日　本部月次祭
28日　餅つきひのきしん
29日　年末清掃・迎春準備ひのきしん
　　常任役員会議◇役員会議
31日　大祓式

1月

1日　元旦祭
　祭　主・大教会長　扈者・桑子保・加藤成幸
　指図方・安藤正二郎　賛者・津田豊郎・出口順一郎
　◇大教会長挨拶
2日　よふき会初例会
5日　本部お節会（7日まで）
12日　常任役員会議
13日　春季大祭
　祭　主・大教会長　扈者・筑紫英一、都築隆道
　指図方・安藤正二郎　賛者・塚原光男、出口邦郎
　　教会長夫妻おたすけ推進の集い
　　講話―内統領・宮森与一郎先生
　　教会長年頭連絡会
　　青年会初例会
14日　布教実修所
16日　むつみ会初例会
17日　こども食堂ＭＯＧＵ（参加者90人）
20日　婦人会初例会
　　こはる会初例会
　　女子青年初例会